



報告日	2017年1月14日
氏名	又吉 大輔

派遣内容	派遣先	鹿児島県
	大会名	第37回 全九州ミニバスケットボール 鹿児島大会
	期間	2017年1月7日(土)～2017年1月9日(月)
	同行者	鈴木理事長、伊佐さん、当真さん
	目的	当大会に出場する松島小学校男子チームのサポートをするため。

報告事項	活動内容	<p>1月7日(土) 鹿児島へ移動。午前中に到着し、レンタカーで市内まで移動。松島小は前日入りし、開会式前に地元小学校と練習試合を実施していた。コンディション調整と交流ができて良いと感じた。16時の開会式に間に合わせて、鹿児島アリーナへ移動。外で松島小が更新練習を行っていた。開会式本番ではその成果が出ており、全チームの中でも一番手を振り、足を上げて行進していた。今後も、派遣決定チームはこのような予行演習もした方がよい。開会式は、熊本地震に配慮した挨拶や選手宣誓があり、ミニバスケットボールの精神に則った素晴らしい開会式だった。大会役員が指揮壇で挨拶をするときに、少しの子が顔だけしか壇上を向いていなかったため、全員が顔と体を話している人に向けられるように指導したい。</p> <p>1月8日(日) 大会1日目。松島小のゲームがある鹿児島県体育館で観戦と応援を実施。松島小の1試合目はいつものプレーができていないように見えた。寒さで手がかじかんでいるようには見えなかったが、緊張から来る固さが影響したか。与那城小の2試合目は熊本チームに1ゴール差で惜敗。相手はゾーンディフェンスばかりだった。また、相手チームのフォーメーションプレーに何度もやられていた。2試合目はメンバー構成も変更し、固さも取れて、いつもの速攻やミドルシュートが冴え渡っていた。また、登録メンバー全員が出場することができた。得点も70点までのせた完勝だった。県・那覇・島尻・国頭・中頭の各理事に加えて、松島・与那城・川崎の指導者も参加。ゆたかは不参加だった。沖縄県の紹介は他を圧倒していたように思う。野芥(福岡)、WEST明和(宮崎)の指導者と少しだが挨拶ができた。沖縄県の2次会にも参加し、県内の各理事とも非常に意義深い交流を図ることができた。</p> <p>1月9日(月) 大会2日目。松島小の準決勝会場の鹿児島アリーナへ移動。相手の大宮は160cm以上が3名おり、その2人がボール運びもできる中心プレイヤーだった。松島もパスワークとミドルシュートを軸に、キーマンへの前からのダブルチームで対応。最後までもつれたが、惜しくも1点差で惜敗。大宮小の優勝かと思ったが、松島戦で走らされた疲れからか、キープレイヤーがボールに絡んだ場面が減り、準優勝で幕を閉じた。</p>
	マンツーマンについて	<ul style="list-style-type: none"> 九州各県のコミッショナーによって、旗を上げる頻度がバラバラで統一されていない印象。とある県のコミッショナーは、違反を取り締まるかのように旗をあげていた。 観戦できた会場のゲームの内、1試合で赤旗のベンチテクニカルが取られていたが、ほとんどは黄色のみ。ベンチの反対側にコミッショナー配置だったことともあり、クォーター間での指摘行動は見られなかった。
	審判	<ul style="list-style-type: none"> 全試合、B級以上の審判によるゲーム進行は、とてもスムーズだった。ファールコールの動作やクォーター間・ハーフ間の管理がよく、あっという間に試合が終わった印象がある。 あまりファールを取り上げずに、ある程度の部分はプレーを続行させていると感じた。

大会運営・その他

- ・2日間を通して、T・Oや得点板係の子どもたちが自立して各々の役割をしていたのが印象に残る。T0主任が補佐する場面はほとんどなかった。クォーター間のモップ掛けの開始・終了時も必ず一礼していた。
- ・ファールを犯したプレイヤーは、沖縄県を除き、ほとんどが手を上げていた。引き続き、地区大会の中で子どもたちに指導を徹底したい。
- ・レセプションへの参加は勝敗に関係なく必須であると痛感した。島尻の理事が「どこからも応援されないチーム」と言っていたのが全て。
- ・審判やゲーム進行も含めて、レベルの高い大会にせっかく参加するので、今後の派遣チームへの情報提供も兼ねて、ビデオ撮影してDVDを連盟でもっておくのはどうか。派遣チームへは貸出を行うなど、那覇地区のチームが上位に行けるように連盟としてもサポートできるのではないかな。

以上